

青野原

【発行】
防衛協会青野原会
駐屯地連合会
青 桜 会

【印刷】
(株)前田精版印刷

駐屯地司令要望事項
地域と共にある駐屯地
群長統率方針
任務の完遂
群長要望事項
なすべきことをなせ

方面総監初度視察受察

駐屯地は7月8日、中部方面総監 野澤 真陸将の視察を受けた。

野澤総監は、駐屯地司令による状況報告に引き続き隊内を巡視、この際、営内居室(※)に立会した隊員一人ひとりに対して平素の業務内容や出身地など自ら声をかけて、精力的に部隊の状況を確認された。駐屯地隊員に対する訓示では「今年はASPが中止になってしまったけれども、来年はまた、かつてのように8高群が全国ワンツーフィニッシュ。そうなれるように改めて自分は次に何をやらなければならないかをこの機会にしっかり考えてみてください。」「方面直轄部隊の中で唯一の戦闘部隊である第8高射特科群に期待するところは非常に大きいので、君たちの益々の健闘を期待しています。」と激励された。

駐屯地の視察後は、青野ヶ原演習場内廠舎地区の整備状況を確認された。

※営内居室：駐屯地内で隊員が生活する場所



▲儀じょう



▲演習場廠舎地区視察



▲総監訓示



▲隊内巡視

感謝状贈呈

■第3師団長表彰

青桜会 野口 英司 会長は、永年にわたり自衛隊に対して貢献された功績により第3師団長から感謝状を贈呈された。



▲3師団長から贈呈された感謝状

■駐屯地司令表彰

永年にわたり駐屯地にご協力いただいた方に対して、駐屯地司令より感謝状が贈呈された。

個人

西脇市防衛協会会長

高橋 博久 様

加西市防衛協会会長

黒田 秀一 様

小野市防衛協会事務局長

藤木 保喜 様

三木市防衛協会事務局長

野藤 孝一 様

団体

パソナ・パナソニックビジネス
サービス株式会社 様

青野原新聞100号記念

広報紙「青野原」は今号(令和2年8月号)をもって発刊100号の節目を迎えた。

通称「青野原新聞」と呼ばれる本紙は、駐屯地開設1周年を記念して昭和52年8月20日に「あおのがはら」と命名され、駐屯地隊員と隊員家族及び地元住民相互の融和親睦を深めることを目的として、小野市、加西市及び滝野町防衛協会協賛のもと第1号を発刊した。

第1号発刊当時は発行部数1500部、年に2回(9月・1月)の発刊であり、主に記念行事、年頭の辞、隊員の投稿記事から構成されていた。新聞編集にあたり当時の担当者は「各種行事の写真集め、今まで(個人的)に疎遠であった図書館へ足を運び、古いアルバムをひっくり返すこととなった。」と昭和53年1月号の「編集後記」に書き留めており、当時の苦労が記されている。平成8年1月1日から広報紙の名称が「青野原」となり、平成9年7月1日には駐屯地OBで構成された青桜会の発会により、連合会(現在防衛協会青野原駐屯地連合会)と青桜会の協賛で発刊となった。



平成28年
(2016年)
第84号

記事は駐屯地創設40周年
記念行事

平成9年
(1997年)
第6号

広報紙名称が「あおのがはら」
から「青野原」へ

昭和52年
(1977年)
第1号

駐屯地開設1周年を記念し
第1号を発刊

(会長あいさつ)



防衛協会青野原駐屯地
連合会 会長
田村 彰 敏

幾多の困難を乗り越えられこの度、広報紙「青野原」100号記念紙記念発行の日を迎えられ誠にありがとうございます。心より敬意を表します。

私達防衛協会会員も日常活動を通じて地域の皆さまへ広報紙をPR活動することにより防衛意識の向上に寄与するのではないかと考えます。今後益々広報紙「青野原」を充実され駐屯地が発展飛躍されますことを祈念いたします。



青桜会
会長
野口 英 司

季節毎に青野原の香りを載せて届く、広報紙「青野原」が100号発刊の節目を迎えたことは、OBとして大変、慶ばしく思うところであり、直接編集に携わった方々はもとより、駐屯地隊員及び青桜会会員の皆様のご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。

今や誇れる伝統の一つとなった本紙の発展・充実に青桜会の一員として今後とも変わらぬ支援を続ける所存であります。

生き残り、任務を完遂せよ

第8高射特科群は、令和2年5月11日から13日までの間、第339高射中隊（中隊長 岡田3佐）に対し、青野ヶ原演習場において第1次野外行動訓練検閲を実施した。また6月8日から10日及び6月16日から18日までの間、第340高射中隊（中隊長 平林3佐）及び第338高射中隊（中隊長 反橋3佐）に対し、青野ヶ原演習場及び日本原演習場において、第2次野外行動訓練検閲をそれぞれ実施した。

群長 押川1佐は検閲に先立つ訓示において「生き残り、任務を完遂せよ」「各種管理の万全」の2点を要望

部内外に影響を及ぼすような事故・事案を起こすことは決して許されるものではなく、「中略」必要な処置を徹底して、無用な事故・事案を生じさせないよう肝に銘じよ。」と述べ受閲する中隊の奮起を促した。

5月に受閲した339高中は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、陣内待機場に石鹸やアルコール消毒液を準備し、簡易的な手洗い場を設置した。また、体温計測を逐次実施し、人的損耗を未然に防止するとともに、いかなる状況下においても、中隊一丸となって迅速・確実に射撃準備を完了させ高い戦闘力を見せつけた。

6月に受閲した340高中及び338高中は、昼間と夜間の寒暖差が20度に迫る厳しい状況の中、昼間の強い日差しとマスク着用による息苦しさにも耐え、不屈の精神で任務に邁進した。中隊は、本検閲終始を通じ、敵を意識した行動に努め、陣地占領時、隠蔽良好で上空からの敵の発見防止に着意した配置を選定し、連統・長期にわたり中隊が健在できるよう、高い意識で戦い続けた。

各中隊は、実際の作戦行動を想定した厳しい状況付与に対して、中隊長を核とし、隊員相互に助け合い、真摯かつひたむきに任務完遂に邁進した。

検閲 優秀隊員の紹介

339高中



捕撃班：蔵永2曹 中隊本部：阿藤1曹



射撃班：鳥越2曹 指揮班：南3曹



射撃班：水谷3曹

340高中



通信班：松井士長 中隊本部：松本准尉



捕撃班：木下3曹 指揮班：篠原3曹



射撃班：上田3曹 射撃班：宮里3曹

338高中



捕撃班：比嘉3曹 指揮班：草野2曹



射撃班：岩田2曹 射撃班：小満2曹



炊事班：神藤2曹 通信班：森3曹

令和2年度 第1次・2次 野外行動訓練検閲



自衛官候補生課程修了 旅立ち 新任地へ

第8高射特科群教育隊は、6月19日、駐屯地にて「令和2年度自衛官候補生課程修了式」を挙行了した。

修了式を終えたあと、ある自衛官候補生（以下自候生）からは「当初、体力面に不安があるため気持ちが沈んでいた時、ベッドバディ（※）が相談に乗ってくれた。休日は家族の励ましにより、乗り越えることができた。」「普通の社会人だったら体験できないことができ、団体生活の中で仲間意識も高まった。入隊してよかった。」などと約3ヶ月の教育を振り返った。

入隊当初、慣れない環境に戸惑い、不安を感じていた自候生たちは、日ごとに同期との絆を深め、基本教練、射撃、野外行動などの様々な教育課目を修得し、晴れて40名が6月29日付で2等陸士に任命された。

新隊員たちは7月1日から新たな任地において、約3ヶ月に渡る各職種部隊の専門教育に臨んでいる。

※ベッドバディ：2段ベッド上下の2名が組になり助け合う仲間のこと

自衛官候補生の教育後の感想は、青野原駐屯地HPの「入隊の軌跡」で詳しくご覧いただけます。



▲群長式辞



▲修了式を終えた自候生



▲射撃



▲基本教練



▲戦闘訓練



▲体力検定



▲25km行進訓練



▲掩体構築

新隊員後期開始式 職種別の専門教育始まる

第8高射特科群は、7月6日、「令和2年度新隊員特設課程及び一般陸曹候補生課程（後期）開始式」を挙行了した。

式の中で群長 押川1佐は、「特技を自分のものにせよ」「同期の絆を深めよ」と要望するとともに、「第8高射特科群という同じ部隊の一員として、なすべきことをなし、修学目標を達成することを期待する。」と述べた。

7月1日付で

それぞれの課程教育入隊を命ぜられた26名の新隊員は9月19日までの間、高射特科部隊の発射手又は、通信科部隊の搬送通信手として必要な基礎的知識及び技能を学ぶ。



▲群長式辞

令和2年7月豪雨災害派遣 駐屯地各部隊 速やかに出動

第8高射特科群及び第302高射直接支援中隊は、令和2年7月豪雨に係る災害派遣に従事するため、駐屯地を出発した。

災害派遣を命ぜられた隊員は、速やかに準備を整え、7月7日、302高直支中 中尾3曹以下4名が、入浴支援のため北熊本駐屯地に向け、翌8日、8高特群 反橋3佐以下56名が、生活（給水・給食）支援のため同駐屯地へ向けそれぞれ出発した。



▲入浴支援出発



▲生活支援出発

318基通中 青野原派遣隊 武装走競技会

第318基地通信中隊青野原派遣隊は、6月24日、姫路駐屯地において中部方面通信群が実施する「令和2年度武装走競技会（前期）」に参加した。

本競技は、通信群隷下の各中隊の陸士隊員が参加し、武装時の体力及び気力の向上を図ることを目的に実施され、内容は、いくつかの障害がある

2kmの距離を走破し、個人毎のタイムを競うものであり、青野原派遣隊からは4名の隊員が参加した。初めて参加した隊員からは「参加するにあたり半長靴を履いて練習したが、ペース配分が上手くいかなかった。」と話していた。各人は本競技会の課題を克服すべく、来年3月に実施予定の後期競技会に向け、練習を始めている。



▲出走前の岡田候補生(左)、伊藤士長(右)



▲雨の中、激走する竹谷1士

